

非鉄金属

インドに新製造拠点

日系自動車関連市場を捕捉

焼結部品のダイヤモンド

焼結部品大手メーカーのダイヤモンド(本社・新潟市東区、社長・伊井浩氏)は20日、インドに新製造拠点を開設すると発表した。同国で成長が見込まれる自動車関連などの市場を捕捉することが狙い。約11億円を投じてハリヤナ州マネサル工場を開設。オイルポンプロータを中心とした自動車部品などを製造する計画となっている。2026年4月から生産開始の予定で、月間1000トンの生産能力を確保する。新拠点はマレーシア・中国に次ぐ三つ目の海外拠点となる。



26年4月から生産開始予定の新製造拠点

インドの自動車関連向け新製造拠点では、主の供給も強化したい考え。市場は人口増加や経済に同様に立地する日系企業だ。工場は既存建屋を賃借する形で開設。敷地面積は1万573平方メートル。現地で建築面積は7277平方メートルとなっている。人員体制は生産開始時に30人程度を予定し、その後需要に応じて増員を想定している。また同社では電動車の生産も視野に入れている。新拠点はマレーシア・中国に次ぐ三つ目の海外拠点となる。

8月後半積みアルミ原料買値 関東地区、10~15円安

二次合金メーカー

関東アルミ二次合金メーカーと原料問屋間で8月後半積みアルミ原料買値は、10~15円安と見られる。8月は、新切品など上物類が前半積みと合わせて最大50円安となった。原料仕入れ値の引き下げは今後の二次合金販売価格に織り込まれるため、今月の原料買値交渉によって製品の先安観が台頭している。

中部地区アルミ二次合金メーカーは、8月後半積みアルミ原料買値は、10~15円安と見られる。8月は、新切品など上物類が前半積みと合わせて最大50円安となった。原料仕入れ値の引き下げは今後の二次合金販売価格に織り込まれるため、今月の原料買値交渉によって製品の先安観が台頭している。

中部地区アルミ二次合金メーカーは、8月後半積みアルミ原料買値は、10~15円安と見られる。8月は、新切品など上物類が前半積みと合わせて最大50円安となった。原料仕入れ値の引き下げは今後の二次合金販売価格に織り込まれるため、今月の原料買値交渉によって製品の先安観が台頭している。

1ドル1150円前後の円安が定着しているものの、非鉄製品の輸入量は高止まり傾向にある。従来は国内メーカーが製造を取りやめる汎用品分野に輸入材が入り込む流れが主流

缶材

攻防 ①

缶材はUACJと神戸製鋼所、MAアルミニウム国内3社に加え、海外材がシェアを拡大している。今後は、海外材がシェアを拡大する方向で、国内勢は苦戦を覚悟している。

王座・製缶車集で国内才優立

缶材はUACJと神戸製鋼所、MAアルミニウム国内3社に加え、海外材がシェアを拡大している。今後は、海外材がシェアを拡大する方向で、国内勢は苦戦を覚悟している。

レアメタル商社の富士興産 新会社「富士マテリアル」設立

原料リサイクル事業を分離独立

レアメタル・レミア社(社長・赤嶺和俊氏)は、「富士マテリアル」を10月1日付で設立し、原料リサイクル事業を分離独立させ、新会社「富士マテリアル」を設立する。新会社は、原料リサイクル事業を分離独立させ、新会社「富士マテリアル」を設立する。

レアメタル・レミア社(社長・赤嶺和俊氏)は、「富士マテリアル」を10月1日付で設立し、原料リサイクル事業を分離独立させ、新会社「富士マテリアル」を設立する。

レアメタル・レミア社(社長・赤嶺和俊氏)は、「富士マテリアル」を10月1日付で設立し、原料リサイクル事業を分離独立させ、新会社「富士マテリアル」を設立する。

7月の銅電線出荷 1.3%減、5万1200トン

日本電線工業会は20日、7月の銅電線出荷量が前年同月比1.3%減の5万1200トンと発表した。

ハーネスの開発期間短縮 「製造シミュレーション技術」開発

ハーネスの開発期間短縮「製造シミュレーション技術」開発。製造シミュレーション技術を開発し、開発期間を短縮する。

働き方改革 富士興産は拠点の本拠地を大阪に

働き方改革 富士興産は拠点の本拠地を大阪に。本社を大阪に移転し、働き方改革を進める。